

産後ケアセンター開設後の現状と課題

真田産婦人科麻酔科クリニック

○中尾 加代子 松浦 和子 向 千津子 高丘 直美 内川 加代子
西頭 東加 吉村 紀子 酒井 康子 平川 万紀子 平川 俊夫

【はじめに】

当院では退院後の電話訪問、おっぱい育児相談、24時間対応おっぱいホットライン、2週・1か月健診と切れ目のないケアを展開している。出産後の心身をサポートし、母子の愛着形成を促す産後ケアセンター「マリィのおうち」を平成26年6月開設、1年経過したので現状と課題について報告する。

【方法】

平成26年6月4日から27年3月31日までの分娩総数と産後ケアセンター利用者(以下利用者と略)との属性を比較、検討した。診療録による抽出においては、個人情報保護に十分配慮した。また、利用者を対象に料金・利用日の傾向、無記名自由記述式によるアンケートから目的と利用後の感想についてまとめた。

【結果】

のべ利用者人数130名、うち2回利用10名、3回利用2名。他院分娩利用者なし。分娩総数746名中15.5%(116名)が利用。分娩総数のうち初産49.5% 経産50.5%、利用者のうち初産80.8%(93名) 経産19.2%(23名)。分娩総数の様式は、経膈分娩73% 吸引分娩11% 帝王切開分娩16%、利用者の様式は、経膈分娩66.4%(77名) 吸引分娩19.8%(23名) 帝王切開分娩13.8%(16名)。分娩総数のうち35歳以上が26.4%、利用者は37.0%(43名)。分娩総数のうち退院時MB・EPDS高得点者はMB12.4% EPDS10.8%、利用者はMB25.2%(29名) EPDS20.0%(23名)。栄養方法は、当院の先行研究では1か月母乳栄養率68.1%、利用者は母乳栄養率44.8%、うち35歳以上の母乳栄養率32.6%。料金別利用者は5,000円が101名、13,000円が12名、15,000円が17名。産後2週～1か月以内の利用は49名で最も多く、次いで退院～2週が42名、1～2か月が26名、2か月以降が13名であった。アンケート結果では、授乳支援の利用目的が主で、ベビーケア、育児支援、休養、おっぱいケアの順であった。安心した、リラックスでき休養できた、自信がついた、話しを聞いてもらって楽になった、頑張れる等の感想が得られた。

【結論】

異常分娩、退院時MB・EPDS高得点、初産婦、35歳以上、1か月未満の利用が多く、母乳栄養率は低い傾向にあった。細やかな授乳支援と休養環境の確保、そして信頼できるスタッフと深く関わることで育児の安心と自信へと繋がり、愛着形成を促進していると言える。それは後に人との信頼感につながり、ソーシャルキャピタルの要素ともなる。利用者の経済的負担の軽減、多様なニーズに即したケア展開、経産婦においては託児の考慮が今後の課題である。さらに身近な利用となるよう行政の助成や支援に期待したい。